

公園計画プロセスへの住民参加に関する研究*
—模型製作を通じた子どもの描く公園イメージの把握(1)—

A study about participation of the citizens for a park planning process*
- Comprehending the children's images of parks by making scale models(1) -

伊東啓太郎**・久保一世***・津田佐知子****・藤原勝紀*****・J.F.Benson*****

By Keitaro ITO**・Kazuyo KUBO***・Sachiko TSUDA****・Katsunori FUJIWARA・J.F.Benson

1. はじめに

子どもの「遊び」は、自然のしくみを知り、生活の知恵を身につけるための重要な体験である。しかし、宅地開発等により身近な自然環境が減少している中で、特に都市部においては、子どもの「遊び」のための空間は非常に少なくなっているのが現状である。このような「遊び」のできる場所として、都市部では公園が位置づけられる。しかしながら、公園が必ずしも子どもの「遊び」のニーズを満たしているわけではない。子どものニーズを満たすためには、彼らの求めている公園のイメージを把握することも重要である。現在、著者らは、福岡県内において住民参加による公園計画・設計を行っている。通常、公園は1)発案・企画2)調査3)計画・設計4)建設5)開園6)管理・運営という段階を経て計画されるが、住民の求める公園や愛着を持ち管理運営までを住民の手で行っていけるような公園を計画するためには、

*キーワード：住民参加，子ども，公園，模型

**正員，農博，九州工業大学工学部建設社会工学科
(北九州市戸畑区仙水町1-1，
TEL093-884-3104，FAX093-884-3100)

***南郷町役場総務課
(宮崎県南那珂郡南郷町南町8-1，
TEL0987-64-1111，FAX0987-64-2006)

****九州芸術工科大学大学院芸術工学専攻
(福岡市南区塩原4-9-1，
TEL092-553-4476，FAX092-553-4476)

*****教博，京都大学大学院教育学研究科
(京都市左京区吉田本町，
TEL075-753-3072，FAX075-741-5665)

*****Ph.D, School of Architecture, Planning & Landscape,
University of Newcastle, Newcastle upon Tyne NE1 7RU,
UK TEL+44 191 2226802 , FAX+44 191 2228811)

1)の段階から参加することが重要である。本研究では、公園計画プロセスへの地域住民の参加の1つ手法として、子どもたちの求める公園の模型を作ってもらふことにより、そのイメージの把握を試みた。

2. 研究の方法

(1) アンケート調査

2001年12月、福岡県内のA小学校5年生85人に対して、アンケート調査を行った。身近な公園について調べてもらい、その公園の、1)好きな所、2)嫌いな所、3)さらに好きな公園にするにはどうしたらよいか、という質問項目に対する回答を求めた。

(2) 模型製作

2001年12月、福岡県内のA小学校5年生85人、B小学校6年生34人に、自分の求める公園の1/100模型を作成してもらった。模型スケールは1/100、敷地のサイズを20cm×20cmすなわち実寸では20m×20mの正方形とした。1/100スケールにした理由は、スケール感が獲得しやすいためである。1/100スケールを正確に把握してもらうために、作成者本人のサイズの人形を作成し、公園模型中に配置してもらった。模型に使用する素材は、身の周りにあるものを自由に用いてよいこととし、プリコラージュとしての模型を期待した。

3. 結果と考察

(1) アンケートと模型に出現するイメージの違い

図-1に、A小学校女子の模型写真を示す。このように、模型には水辺や樹木といった構成要素が具体的に表現された。表-1にA小学校でのアンケート調査と模型から得られた求める公園に出現した構成要素を示す。アンケート調査の結果では19種類、模型では25種類の具体的な構成要素が表現された。アンケートには、例えば、「その公園にしかないも

の」。「芝生で遊べるもの」といった抽象的な記述がみられた。逆に、模型には、形として構成要素が表現されるため、抽象的な要素は出現しなかった。

構成要素の中で、最も出現頻度の高かったのは、遊具で、アンケート中52人、模型中81人、ついで樹木で、アンケート中12人、模型中68人、ついで池・川等の水辺で、アンケート中25人、模型中41人であった。



図-1 A小学校女子の模型

表-1 アンケートと模型に出現した構成要素

種類数	模 型	アンケート
1	樹木	樹木
2	ベンチ	ベンチ
3	遊具	遊具
4	トイレ	トイレ
5	休憩所	休憩所
6	ゴミ箱	ゴミ箱
7	水飲み場	水飲み場
8	自動販売機	自動販売機
9	お店	お店
10	池・川	池・川
11	広場	広場
12	小動物	小動物
13	噴水	噴水
14	時計	時計
15	多目的グラウンド	多目的グラウンド
16	プール	プール
17	ゲート	サッカーゴール
18	橋	公衆電話
19	柵	家
20	交番	
21	展望台	
22	花壇	
23	イベント館	
24	お城	
25	サッカーコート	
合 計	25 種類	19 種類

これらのことから、子どもの求める公園イメージは、アンケートよりも模型上で、より具体的に表現されていることがわかった。さらに、模型では、模型中に表現された構成要素のサイズや色を把握することができるため、より具体的なイメージを把握す

ることが可能であった。

(2) 模型における構成要素の分析

構成要素のうち、自然的な要素についてみると、樹木に関しては、いずれの学校でも80%以上の出現率であった。また、水辺空間としては、池、川、噴水が出現したが、噴水の出現率は低く、自然性の高い水辺空間を表現している模型が多かった。さらに、池、川ともに小動物、魚、虫が同時に配置されている模型が多く、水辺空間を生物の生息空間として捉えていることがわかった。一方、人工的な要素では、遊具の出現率が最も高く、ブランコ、滑り台、砂場の出現率が高かった。また、オリジナルのアイデアによる遊具が表現されている例や、なにも作らず自由に遊べる空間を表現した模型もあった。

(3) 数量化3類による分析

第1軸を利便性、第2軸を自然・人工の対比、第3軸を休息・レクリエーションと動的な行動の対比を示す軸として解釈した結果、1)多様な機能を求めている公園イメージ、2)人工的な要素を取り入れた休息のできる公園イメージ、3)自然性の豊かな公園イメージ、4)商業施設等があり利用者が快適に過ごせる公園イメージに分類することができた。

4. おわりに

子どもの求める公園イメージの把握には、アンケートよりも模型作成による方が、より多様で具体的なイメージを捉えることができるため、有効な手段であると考えられた。最近の調査では、都市化や少子化の影響で子どもたちの遊び空間、遊び時間は減少し、遊び場所も外遊びから内遊びに変わってきている¹⁾。豊かな「遊び」が可能な公園を計画するためには、子どものニーズをできる限り把握することが必要であり、今後、さらなる調査解析を行うことにより、子どもや地域住民の求める公園イメージを明らかにしていく必要がある。

本研究の一部は、日本学術振興会の科学研究費補助金、課題番号14658070により遂行されていることを付記しておく。

参考文献

- 1) 仙田満：「こどものためのあそび空間」，市ヶ谷出版社，pp.52-53，1998．